



▲棚田まもる会の会員



▲棚田まもる会では、白谷地区の棚田14枚を耕作している

地域の話題

白谷の棚田

地域の資源『棚田』を守り継ぐ

童浦校区白谷区の有志で結成した『棚田まもる会』。地域に残る貴重な棚田を守ろうと、世代を超えて行っている活動についてお便りが届きました。



『棚田まもる会』の活動の始まりは、平成23年秋でした。この会は『白谷祝詞保存会』の会員が中心となつてできたものです。保存会の中で、もつと地域を面白く元気にできないかと、話し合っていた折、白谷地区でたつた一人最後まで、棚田を耕作して来た方が亡くなりました。残念なことに、後を続けられる人がいませんでした。

棚田消滅の危機に立ち上がる

いくら耕地の少ない地区とはいえ、不便な上に労力のかかり過ぎる小さな棚田など、今ではすっかり見向きもされなくなり、ほとんど荒れてしまいました。棚田は二度荒れると元へ戻るのが絶望的となります。

白谷地区で最後の棚田が消えるかもしれないこの時、多くの仲間が、危



惧を抱き、それなら、我々の有志でこれをお借りして、耕作しようということになりました。

こうなると、高齢者の経験とノウハウが心強いものです。高齢者の指導や助言を受けながら、若い人も皆自発的に動き出しました。楽しみながら年間作業をこなし、実りの秋には予想以上の収量を得て充足感に浸りました。何をやるにも老若の会員がわいわいと楽しくやることで、誰もが納得する結果となつています。

棚田を中心に進む地域づくり

ひとつできればその次へと、夢は膨らむ一方です。棚田の周りには、景観を考えて彼岸花やカキツバタなどを植え、藤棚も整備中です。さらに、棚田の入口では、信楽焼の狸がひょうき

んな顔で迎えてくれます。その脇には掲示板があり、誰もが自由に俳句や川柳など書き込んで、お互いの感性を磨く場ともなっています。

世代を超えて棚田を守り継ぐ

幅広い年齢層の会ですが、この活動を通して会員同士の信頼関係や絆が二層深まり、活動にも積極的になってきました。今後、力を合わせて、この棚田を大切に守り継いでいきます。



●夕日に映える棚田

棚田まもる会

【会長】藤城忠信

【会員数】30名

【作付面積】約17アール(たん七畝)

【棚田枚数】14枚

